

KAGAWAアンバサダーからのお便り ～安藤 光浩さん～

つつじ

香川県出身の画家鈴木啓世さんの詩集の中に、「潮干狩り」という詩があります。四ページにわたり、淡々と羅列された故郷の風物。日本人を生んだ自然とそこにおける生活とが、何の誇張もなく描写されているので、儚いがゆえの尊さが際立っています。小津映画のようです。その中に、多くの草木が出てきます。数えると三十二種ありました。讃岐の田舎道を小一時間も散歩すると、普通にそれくらいの数の木や花と出会えた記憶がよみがえります。小鳥やカエル、川のせせらぎや鐘の音も聞こえてきます。良い土地で育つことができたなど、心のいちばん大事な場所に、仕舞っておきたくなるような詩です。

.....

スペインは、世界の中で最も住みやすい国の一つに違いありません。あえてぜいたくを言えば、もう少し雨が降ってくればということでしょうか。トレドの降水量は、香川県の約五分の一です。

トレドに住み始めたころ、親日家の A さんが近くに越してきました。苗木屋さんでつつじを見つけ、日本風つつじ垣を夢見て、十株ほどを庭に植えました。しかし、つつじやサツキはラ・マンチャ地方の石灰質土壌とは合わないうえに、乾燥した夏の酷暑には耐えられませんでした。次の年は日陰を選び、土を上質の酸性土に変えて挑戦。そのかいあって、春先に見事な満開の花、でもやっぱり夏が来て枯れました。自動の湿度調整器を発明したり、新しい肥料や、別の品種を探したり、村の植木好きの方や苗木屋さんを巻き込んで、毎冬作戦を練っていました。・・・あれから 24 年、結局つつじ科の植物は駄目でしたが、オリーブ

やマグノリアと一緒に、日本の楓や桜がしっかりと根を張ってくれました。

小豆島では、高湿度で酸性の土壌という環境の中で、高品質のオリーブを見事に栽培されています。しかしながら、オリーブは真逆の環境つまり乾燥した気候とアルカリ性の土壌（スペイン、イタリア、ギリシャ等）で育つ木ですから、香川県の実績は驚異的という他ありません。しかも、結実時期に襲ってくる台風はどう対処されているのでしょうか。大げさに聞こえるかもしれませんが、私の中では、香川のオリーブは、不可能を可能にした象徴です。いにしえから受け継がれた、創意工夫の賜物なのでしょう。香川県は県木にオリーブを選定されています。さもありなん、と思うのです。

Aさんが、「日本でしか育てない木もあれば、その逆もしかり。人間も案外そんなものかもしれませんねえ。」と、悟ったようなことを言いますので、香川県のオリーブ栽培の歴史を教えてあげました。すると、前言撤回、「つつじに合わせて環境を変えようとしたのが、失敗の原因。郷に入れば郷に従えですねえ。」と、また偉そうなことを言うAさん。微妙に違うと思うのですが、そういうことにしておきましょう。

.....



写真は、スペイン北西部ガリシア地方の公園のつつじです。手前に楓、奥に椿。有名な世界遺産サンティアゴ巡礼路の終着地点の近くです。多くの日本人巡礼者も訪れます。聖地を目指す数ある順路の中、スペイン北東部バスク地方（下図右上）から海岸沿いにコンポステラ（下図左上）を目指す、いわゆる「北の道」周辺地域は、雨が多く日本原産の植物もよく育ちます。歩くのが好きな方、食事も素晴らしいのでおすすめのコースです。



昨年、県知事をはじめ四国四県の代表団が訪西、サンティアゴ巡礼路と四国遍路の協力協定を締結されました。まだまだ遠い道のりのようですが、四国遍路の世界遺産登録を目指されていると、伺いました。

遍路道の清掃やお接待をされている方々の心が、より良い形で受け継がれますよう、祈念しております。

2016年12月、トレド。
安藤光浩



安藤 光浩 (あんど う てるひろ) さん

現代美術家。スペイン・トレド在住。KAGAWA アンバサダーを平成 25 年 4 月 19 日に委嘱。

善通寺市出身。

1984 年渡欧。2008 年現代美術賞「BMW 賞」受賞、スペイン王妃より褒章授与。スペイン三大現代美術展でグランプリ受賞。王立芸術科学歴史アカデミー客員。

☆KAGAWA アンバサダー事業について

香川県の名誉大使として、海外で広く香川を紹介していただいたり、県の活性化のために経済、観光、文化など幅広い分野で、情報提供や提言などをしていただいたりする事業です。

☆KAGAWA アンバサダーからのお便りについて

県民の方々に KAGAWA アンバサダー事業及び県の国際化の推進について、より理解を深めていただくことを目的に、世界を舞台に活躍されている KAGAWA アンバサダーの方々から在住国や御自身の活動等について御紹介いただくものです。